

## 赤い羽根「災害ボランティア・NPO 活動サポート募金」

### 第17回助成決定に当たって

赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」(以下、「ボラサポ」と略)の第17次の助成先を決める配分委員会(第19回)を開催しました。

基本的には、応募要項ならびに本ホームページ掲載の「(第1回から第16回までの)助成決定に当たって」の考え方に沿いながら、審査しました。

以下に、今回の応募案件の審査過程で検討した事項について整理し、助成先の選考にあたっての考え方をまとめました。

#### 1. 第17次の応募状況と助成決定状況

##### (1) 応募状況

5月15日から5月29日を受付期間とした第17次募集では、1か月未満の「短期活動」に36件・1,428万円、1か月以上の「中長期活動」に87件・2億372万円、重点活動助成に8件・7,331万円の応募がありました(合計:131件・2億9,131万円)。応募件数は、前回より30件以上増加し、第11次以来6回ぶりに130件を超えました。第16次で3回ぶりに応募額が2億円を超えたところですが、今回は3億円近くにまでなりました。ここ数回、応募件数を増やすためにさまざまな取り組みを進めてきたところですので、嬉しく思っています。

##### (2) 全般的な傾向

第17次応募の活動では、次のような傾向が見られました。

- ①新規の応募は、岩手・宮城・福島の被災3県からの方が他県よりも多く、継続の応募は被災3県よりも他県からの方が多くなっています。震災直後から2年目、3年目と時間が経つにつれ外部団体の支援が減っていることは事実ですが、この応募データからは変わらず継続して関わっている外部団体の存在が見えます。この時期まで関わる団体は「外部」とは言っても、地元の住民や団体と十分連携を取り、信頼関係を築いて活動しているところがほとんどです。継続して活動している団体に記載いただく「前回の活動の成果」の欄からは、地元の方たちとともに活動を進めている様子がわかります。こうした団体が徐々に地元の方たちに活動を引き継いでいることが、被災3県からの方が多いという新規の応募の傾向にもつながっていると考えられます。
- ②拠点を設けて活動するという内容の応募が、中長期活動だけで13件ありました。これは中長期活動の14.9%にあたります。活動内容としては、子育て中の親子が集まったり、避難者が集まったりする、おおむね週5日以上開催しているサロンや、コミュニティカフェ、障がい児の放課後の居場所などがありました。もちろん集会所等を活用して、月に数回行うサロン活動は多くありますが、今回の13件の応募からは、そうした単発の活動ではなく、この時期にある程度しっかりと拠点を設けて活動を継続したいという団体の思いを感じ取ることができました。

## 2.今回、検討を行った助成の考え方について

### [第17次の審査について]

#### ① 商業・農業支援、販売支援などの活動に対する助成の考え方について

ボラサポは助成対象とする活動を、「東日本大震災で被災された方々を支援するボランティア活動等全般」と応募要項で定めています。今回の中長期活動では、こうした「ボランティア」活動の範囲に含まれるかどうか、判断の難しい活動の応募が14件ありました。これは震災から4年が過ぎ、支援活動がより復興を意識したものになっていること、また補助金や助成金の減少を踏まえ、「自分たちで稼がなければならない」という意識が強くなっていることの表れだと考えられます。

ボラサポでは、これまでも漁師の作業小屋である「番屋」を再建する活動や、カフェの運営、雇用確保を目指す活動などにも助成を行ってきました。「雇用確保」については第11回の「助成決定に当たって」において以下のような整理を行っています。

- ・ ボラサポにおいては「雇用確保」を目的に記した活動を以下のように定義することとします。
- その仕事に就くことで、最低賃金制度を下回らない程度の賃金が得られる努力があること
- ・ したがって、目的に「雇用確保」と記載されている場合には、継続的に活動を続けるための資金についてボラサポ以外で確保できる見通しがあるかどうか、事業収入について具体的な見通しがあるかどうかについて、特に審査します。
- ・ 一方、これまでも多く助成をしてきた「手仕事に対していくらかの謝金を支払う」活動など生きがいや居場所づくりの意味合いが強い内容については引き続き応援をしていきます。

この考え方を踏まえ、以下のように判断することとします。

- 商業・農業支援、販売支援をきっかけとし、住民同士のつながりづくりやコミュニティづくり、生きがいづくりなどを目的にする活動については、助成対象とする。
- 具体的には、「通常のサロン活動には参加しづらい男性を呼びこむきっかけとして」とか、「売上を出すことを目的にすることで住民の主体性を引き出す」など、工夫が見られるものについては対象とし、助成の可否について判断する。
- 商業・農業支援、販売支援を主目的とするものについては、「ボランティア活動」を助成するボラサポの趣旨にそぐわないと考え、助成対象外とする。
- 具体的には、「産業化支援」「販売ルートの確立」などを目的とし、住民の参加や地域のニーズが判断できないものについては対象外とする。

委員会では、「これからの時期にこうした活動が重要であることは十分理解するが、ボラサポとしてはやはり、ボランティア活動や地域づくりに着目するのがよいだろう」という意見が出ました。こうした活動の応募を検討される場合は、この判断基準について十分留意されるようお願いいたします。

### 3. 終わりに

第 17 回までの助成を終え、ボラサポの助成は残すところあと 1 回となりました。応募を検討される団体はぜひ早めに準備を進め、この最後の機会を逃さないようにしていただきたいと思います。また、活動している団体でボラサポのことを知らないところがあれば、ぜひ声をかけてお知らせください。日本中、そして世界中の方からボラサポにお寄せいただいた 44 億円というご寄付は、「被災した人たちを支える団体が、被災した人の生活やその地域をきっと良くしてくれるはず」という信頼に基づいたお金だと考えています。しかし、ボラサポは応募がなければ助成することはできません。次回の第 18 回でそうした団体に少しでも多く助成できるよう、この助成を知るみなさんのご協力をお願いいたします。

また、委員会では「ボラサポ終了後に必要とされることは何か」ということについても検討を始めています。今回、重点活動助成で復興のロードマップを作る活動に助成しました。被災地の状況や、残されている課題についてこの活動から学ぶことが多くあるだろうと考えています。被災地、また避難先の声に耳を傾け、これから必要とされていることは何か、またそこで共同募金会としてできることは何かということ、委員会として検討し、最後に提言したいと思います。

以 上

赤い羽根「災害ボランティア・NPO 活動サポート募金」  
配分委員会 委員長 山崎美貴子